

令和3年度 第5回東京都障害者ピアサポート研修カリキュラム検討委員会 ＜議事要旨＞

1 会議概要

- (1) 開催日時 令和4年2月10日（木曜日）10時00分から12時00分まで
- (2) 開催方法 オンライン開催

2 議事内容

下記の専門研修に係る検討事項について、事務局より資料4に基づいて説明し、意見交換を実施

- (1) 演習項目別ファシリテーター用手持ち資料の検討について

【主な意見】

《演習①「ピアサポーターの基礎と専門性」について》

- ・この演習には、3つ要素があると思う。自分の経験を振り返ること、振り返ったことを文章化する等まとめてみることで、それから他の人の話を聴いて受け止めること。話した側が、「自分の話が他の人に受け止められた」と感じることで、ピアサポートの「傾聴・共感・受容」の感覚を得てもらうことができる。
- ・たとえば、「ありのままの自分らしく生きる」という経験を、自分の言葉でまとめてもらうという個人ワークを、15分事前に実施した上で、グループ内で発表いただけると良い。各受講者が、自分の言葉を周りに受け止めてもらえたという経験を、経験をアウトプットしたものと一緒に持ち帰っていただくことができれば良いと思う。
- ・各受講者に振り返っていただくに当たり、複数の障害領域から、複数の経験談を受講者に示せると良い。

《演習②「ピアサポートの専門性の活用」について》

- ・事例を活用して、当事者の方たちの視点や専門性を皆で共有し、気付きを得ていただく演習。設問に記載の内容は、必ずしも順番どおり話し合う必要はない。また、ポイントを絞って、「ディスカッションの視点の参考」のイメージで受講者にお示しできると良い。

《演習③「関連する保健医療福祉施策の仕組みと業務の実際」》

- ・障害福祉サービスは多様なので、加算を算定できる一部のサービスに限定されることなく、色々な期待も含めて、ピアサポーターの活躍の場や求められる場について、意見交換ができると良い。

《演習⑤「ピアサポーターとしての働き方」》

- ・初めて働くという当事者の方にも、働くに当たって必要な基礎知識をしっかりと押さえてもらうというのが本項目の目的。そのため、講義を聞いて、労働者としての権利の行使や働くに当たっての倫理について、心配なことや分からないことを出し合い、それに対してどのように対応したら良いか話し合ってもらえる演習にできたら良い。
- ・たとえば、日頃から対話を通じて職場内で信頼関係を築き、何かあった時に相談し合える職場づくりを

行うなど、ファシリテーターは、解決への適切な道筋を示していけると良い。

《演習⑦「チームアプローチ」》

- ・チームづくりのために具体的にどういうことが本来必要か、ということも整理できたら良い。

(2) 事業所向け研修について

【主な意見】

《事業所向け研修「ピアサポートを活用する技術と仕組み」》

- ・ピアサポーターが相談できる相手の確保としては、職場内外のピアサポーター同士の交流を設けることも、解決策の1つとして受講者に認識してもらいたい。

《事業所向け研修の演習③「ピアサポートを活用する技術と仕組み」と演習⑤「ピアサポーターを活かす雇用」》

- ・以前に参加させてもらった時に、2つの演習で話し合われることが若干被ってしまう感じを受けた。たとえば、演習③では、ピアサポーターを雇用する上での不安や課題について話し合ってもらい、演習⑤では、ピアサポーターへの期待について話し合ってもらうなど、両演習の棲み分けが図れると良い。